

平成30年度 第1回 学校運営協議会議事録

日時：平成30年6月15日（金）15:00～16:30

場所：神奈川県立市ケ尾高等学校 第3会議室

出席者（敬称略）

【委員】

- 倉岡 正高 （地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
- 坂村 暁 （横浜市立市ケ尾中学校 校長）
- 鈴木 秀幸 （地域住民）
- 福田 晴好 （翔凜高等学校 特別講師）
- 仁井田 尊史 （横浜市資源循環局青葉事務所 所長）
- 田中 多恵 （NPO 法人 ETIC 横浜ブランチマネージャー）
- 田口 亮 （東京都市大学知識工学部 教授）
- 増渕 広美 （本校 校長）
（欠席者）
- 中村 浩樹 （本校 PTA 会長）
- 内川 隆 （本校 同窓会長）

【事務局】

- 奥津 賢一 （本校 副校長）
- 寺澤 真治 （同 教頭）
- 黒柳 幸子 （同 地域連携・広報グループリーダー）
- 熊谷ますみ （同 学校運営協議会委員担当）
- 大久保直利 （同 学校運営協議会委員担当）

【市ケ尾高校】

- 本屋敷隆裕 （本校 キャリア支援グループリーダー）
- 伊藤 和久 （本校 生徒指導グループリーダー）
- 吉居 英明 （本校 生徒会支援グループリーダー）
- 佐藤 淳 （本校 管理運営グループリーダー）
- 小野亜希子 （本校 カリキュラム開発グループリーダー）

I 議 事（司会 副校長）

出席者及び議事成立の人数確認。資料確認。

1 学校長挨拶

今年度もよろしくお願ひしたい。本校の懸案事項であった国際理解教育が、福田委員

のご協力を頂いて「国際理解勉強会（グローバル・リーダーシップ講座）」として開講できることとなった。また、今年度、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、陸上競技部が関東大会へ進出したことを報告させていただく。

今年度は、本協議会も2年目となるので、熟議に十分な時間をかけたいと思う。様々な視点からご意見をいただき、よりよい学校づくりを実現したい。忌憚のないご意見を願います。

2 報告事項

○運営委員

●学校（事務局）

（1）学校教育計画及び学校目標について

- 学校評価における目標数値の設定は大事だが、数値だけで評価するのは難しいのではないかと。
- 目標の達成度合いは、ある程度の客観性が求められることから、数値目標をできるだけ設定するようにしているが、ご指摘のとおり数値だけでは評価しきれない取組もある。工夫していきたい。

（2）各グループの取組について

カリキュラム G

- 組織的な授業改善の全体像を明確にし、様々な場面で共有できるよう、「授業改善グランドデザイン」を作成した。現在は「授業見学月間」で、教員が他の教員の授業見学を行っている。また、各教科科目の年間指導計画の内容をすべて見直し、身に付けさせたい学力を意識してもらおうよう、全生徒に配付した。

生徒指導 G

- 生徒の健康、安全を常に視野に入れて活動している。カウンセリングやケース会議の数が多い。生徒向けの人権教育、職員人権研修会に加え、教育相談に関する職員向け勉強会を実施し、人権に対する感覚を磨いている。

生徒会支援 G

- 入部率は昨年度に比べ微増となっているが、学年が上がるにつれて部活動から離れる生徒が増えているのが懸案。今年度は部から離れた理由等を調査・分析し、歯止めをかけていきたい。

キャリア G

- 本校入学から卒業までの36か月を、進路実現のための36歩の歩みとし、各月1歩ごとの行事、活動、目標、アクションを意識させることとした。また、キャリアサポーターが常駐しており、生徒向けのキャリアアップ講演会やスタディアップ講演会、保護者を対象とするペアレントアップ講演会も行っている。

地域連携・広報 G

- 広報活動や、コミュニティ・スクール、特別教育プログラムである「市ヶ尾ユースプロジェクト

クト)、福田委員のご尽力による「国際理解勉強会(グローバル・リーダーシップ講座)」を展開している。

管理運営 G

- 各教室に未廃棄のストーブがあり、今年度はこれを予算のある限り処分していく予定である。教育環境を整え、空いたスペースを有効活用していく。

事務長より

- 予算執行、施設及び施設の管理・整備について説明。校舎の老朽化に伴い、今年度は校舎の南棟のトイレの大規模改修工事が入る。

副校長より

- 今年度の教育目標、各グループの取組や予算等について承認いただけるか。 → 承認。

(活動記録の映像を見ながら)

- 「市ケ尾ユースプロジェクト」は、今年度も活動を継続していくが、昨年度の5チームにこだわらず、新たな視点に立った活動を行う。
- 国際理解勉強会(グローバル・リーダーシップ講座)は、全13回中2回を終了したところである。21名中15名が1年生で、前向きな生徒が多い。福田委員の実体験を含めた話を聞くことができ、通常の教育活動ではなかなか学べない内容となっている。
- 大学進学後に留学する生徒もいるだろう。高校でその基礎を作ることは大切である。
- 部活動に所属している生徒も参加させたいが、時間的な兼ね合いでなかなか難しい。

3 協議事項

(1) 平成31年度入試における志願者数の確保について

- 入学志願者数の減少の要因について
志願者数減少の要因として、私学への流出、広報活動の不足、進学実績、施設の老朽化などが考えられる。トップ校の倍率は上がっている。準トップ校は軒並み減っている。施設の建てかえをした学校や、制服を変えた学校など、目に見えて新しくなった学校が高い倍率になっている。また、中学校からは、現高校1年生から大学入試改革が入ってくるので、安全策をとり、大学付属校を選択した生徒も少なくないと聞いている。今後、志願者数を確保するために、学校としてどのような取組をしていけばよいか、お知恵を拝借したい。

学校(事務局)からの説明後、委員によるSWOT分析を実施した。その中で出された意見は次のとおり。

・Strength(強み)

「生徒は仲が良いように見える」「学校が好きな生徒が多い」「特別教育プログラムを実施している」「自由で一生懸命」「行事が多い」「PTAが協力的」

・Weakness(弱み)

「特徴がよく分からない」「校舎が老朽化している」「学校の名前は知られているが、どんな

学校かは伝わっていない」「ホームページをはじめとする情報量の質・量が希薄」「駅から遠い」「行事が多い」

・ Opportunity（機会）

「市ヶ尾高校に行きたいと思う子が多い」「塾のとらえ方でイメージは変わってくる」

・ Threat（脅威）

「私学の助成制度」「大学定員の厳格化」「中高一貫校が増えている」

- 横浜翠嵐の校舎は決して新しくないが、湘南とともにハイブランドになっている。塾では、大学入試改革で苦勞することをかなり話していて、受験生はナーバスになって公立の準トップ校を敬遠したのではと考える。
- 私立と公立で張り合っても、家庭の経済的な理由で公立を選ばなければならない子もいるので、受験者の層を絞ったらどうか。
- 本人が行きたい高校、親が行かせたい学校があるが、親が行かせたい学校はどんな学校か。親は学校の中身をどこまできちんと見ているのか。
- ネット時代でネットから情報を得ていると大学では聞いている。
- 私立の学校案内の写真はクローズアップしていてわかりやすい。公立はかなり引いてぼかすのでわかりにくい。市ヶ尾高校のホームページは色々なことが掲載されてはいるが、イメージとしては普通の学校という感じがする。しかし、実際に来てみると生徒がとても生き生きとしている。
- 「市ヶ尾高校」という名前は知られているが、どのような学校か、実は知られてない。
- 塾では、学校がどれだけ生徒を伸ばせるかに重きを置いている。
- 学校の行事が多いのが良い面にとらえられる場合もあれば、逆にマイナスにとらえられる場合もある。
- P T Aを利用して中高と連携したらどうか。
- 学校説明会でP T Aの方から親としての視点で話してもらったらどうか。
- 的を絞った改善策を考えたらどうか。
- 熱心な協議に感謝する。いただいた意見を参考に、再度、校内で検討していく。

4 その他

特になし

以上